

魅力ある学習課題の設定

南会津の課題

教師の一方的な学習課題提示になることが多い…。

子供の「問い」や「思い・願い」を引き出し、課題意識をもたせましょう！



1 学習課題設定のポイント

子供が『自分ごと』として捉えることができる課題を！

そのためには



◎ 子供自身が『自問自答』できる課題

➔ 「どうしてだろう?」「なんでだろう?」と自分の中で問うことができる!

◎ 子供にとって『気になる』課題

➔ 「どうなっているの?」「解決したい!」と自然に思える!

◎ 子供が『興味・関心』を高める課題

➔ 「おもしろそう!」「やってみたい!」と惹きつけられる!

教師の『仕掛け』が重要!

◎ 子供自身が作ったように『見せかける』

➔ 子供の「問い」や「思い・願い」を引き出す教師の構えが欠かせません。
子供の気付きや発言をつないで焦点化するために、発問を工夫しましょう。

発問の例) 「みんなの疑問をまとめるとどうなりますか?」

「△△さんの思いを整理して、みんなの課題にしましょう。」

◎ 子供に『ズレを生じさせる』

➔ 既習との違いに気付かせ、「あれ?」と思わせるような問題を提示しましょう。

◎ 子供の知的好奇心等を『くすぐる』

➔ 複数の知識を活用する状況を作り出せるように工夫しましょう。

課題の例) 「どのようにして~のだろう?」

「どうして~のだろう?」

学習課題の条件

- 子供の実態に即している。
- 子供にとって身近で分かりやすい表現になっている。
- 学習への興味・関心を高めることができる。
- 適度な難易度で、解決への見通しをもたせることができる。
- 多様な捉え方や解決などを引き出すことができる。
- 子供にとって追究・解決する価値がある。

子供たちに『授業のゴール』を意識させると、一人一人の学びがさらに充実するね。



2 「問い」や「思い・願い」を引き出すための教材との出会わせ方(例)

- 具体物を提示します。(ICTを生かす)
➔ 資料の段階的な提示や複数の資料の比較・対比などで子供の興味・関心を高めましょう。
- 既習事項を振り返ります。
➔ 前時までのノートや既習内容をまとめた掲示物を活用しましょう。
- 実演を取り入れます。
➔ 「驚き、疑問、矛盾」などの要素を含んだ実演を行いましょう。
- 子供との対話を大切にします。
➔ 子供との対話から「疑問、矛盾、葛藤」などを引き出しましょう。

